

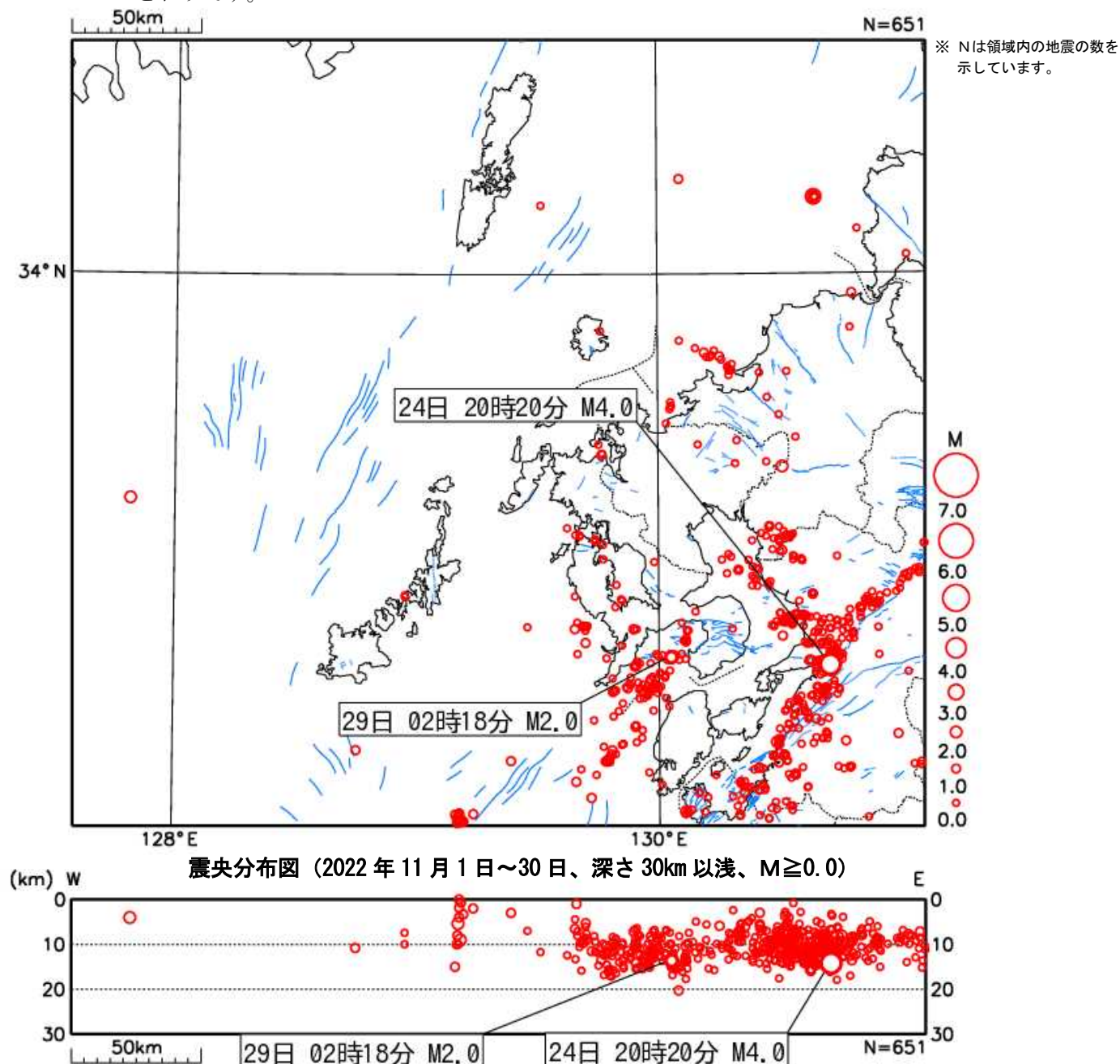
長崎県の地震活動概況（2022 年 11 月）

令和 4 年 12 月 9 日

長崎地方気象台

地震活動の概況（2022 年 11 月）

11 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震は 2 回でした（10 月は 4 回）。詳細は 2～3 ページのとおりです。

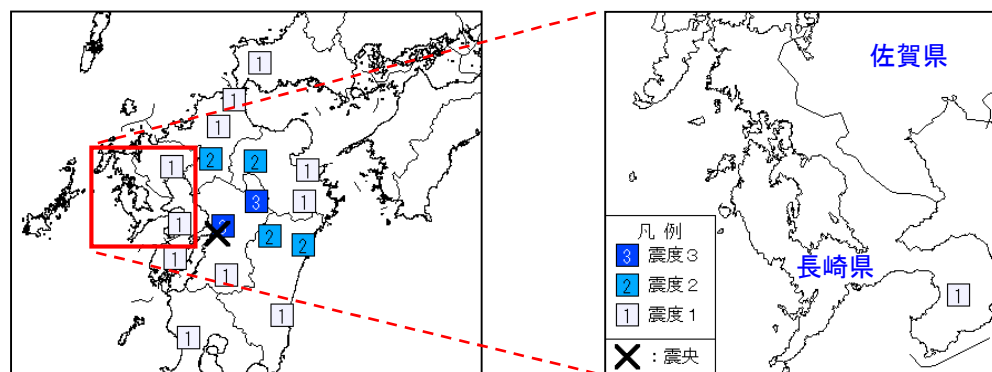


- ※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す（活断層のデータは新編日本の活断層による）。
- ※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

熊本県熊本地方

24日20時20分に熊本県熊本地方で発生したM4.0の地震（深さ14km）により、熊本県の熊本市、宇土市、宇城市などで震度3を観測したほか、九州地方及び山口県で震度2～1観測しました。長崎県では雲仙市で震度1を観測しました（図1）。

今回の地震の震源付近（図2領域a）では、「平成28年（2016年）熊本地震」が発生しています。この領域では、2022年9月2日に発生したM3.6の地震（深さ11km 最大震度2）により、長崎県では大村市、雲仙市及び南島原市で震度1を観測しました（図2、図3）。



11月24日20時20分 M4.0
図1 震度分布図（左：地域別、右：観測点別）

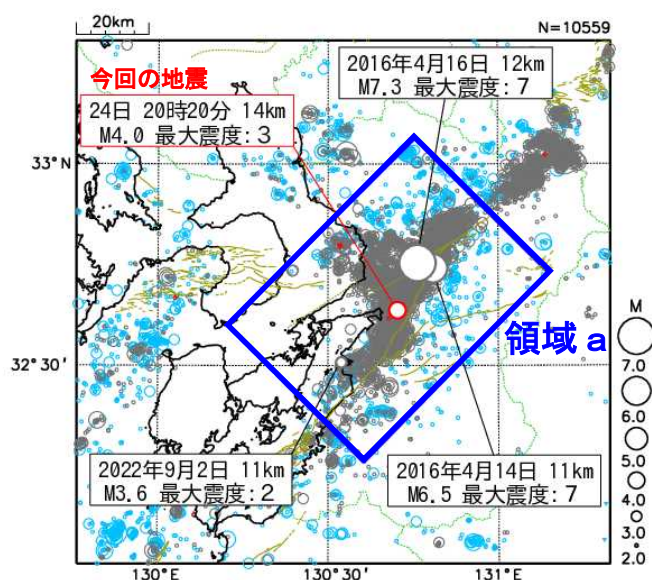


図2 震央分布図

（1997年10月1日～2022年11月30日 深さ0km～20km $M \geq 2.0$ ）

※2016年4月13日以前の地震を青色で、

2016年4月14日以降の地震を灰色で

2022年11月の地震を赤色で表示

※図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

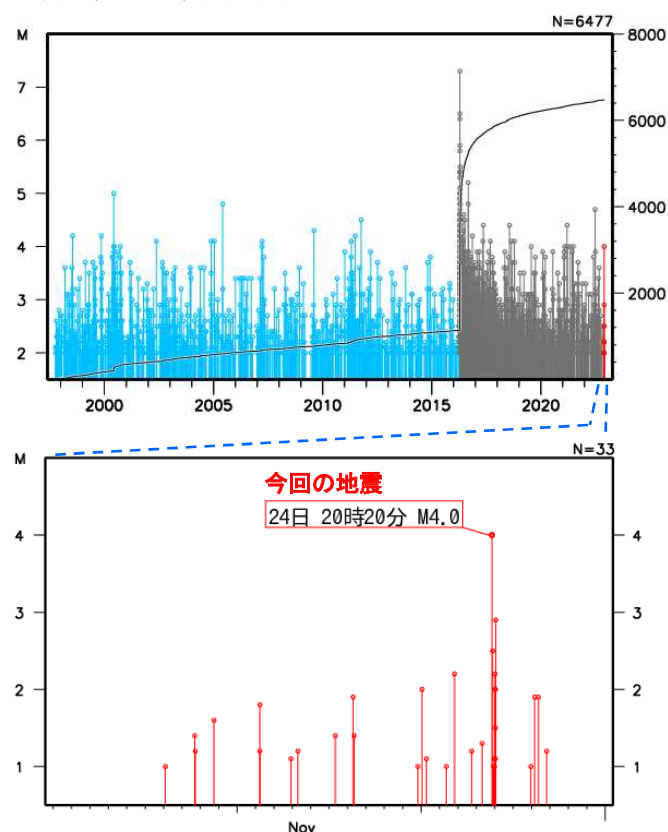


図3 図2領域a内の地震活動経過図及び回数積算図

（上段：1997年10月1日～2022年11月30日、 $M \geq 2.0$ ）

下段：2022年11月1日～2022年11月30日、 $M \geq 1.0$ ）

橘湾

29日02時18分に橘湾で発生したM2.0の地震（深さ14km）により、雲仙市で震度1を観測しました（図4）。

今回の地震の震源付近（図5領域b）では、2022年10月4日にM2.2の地震（深さ14km、最大震度1）が発生し、長崎市及び雲仙市で震度1を観測しました（図5、図6）。



11月29日02時18分 M2.0

図4 震度分布図 観測点別

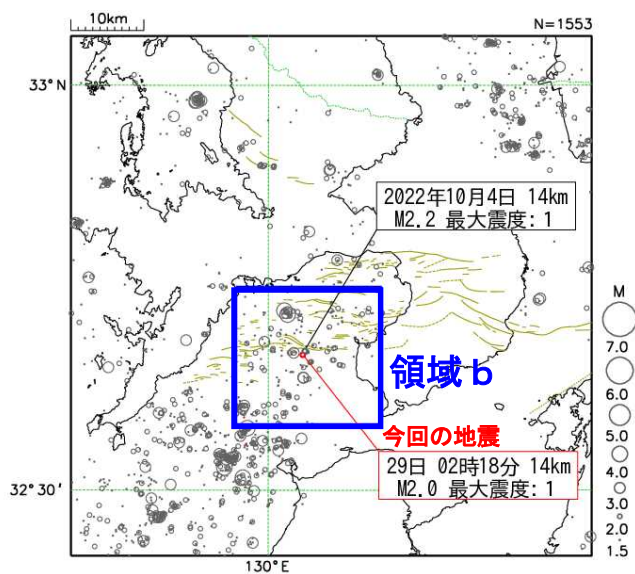


図5 震央分布図

(2000年10月1日～2022年11月30日 深さ0km～30km M $\geq$ 1.5)

※2022年11月の地震を赤で表示。

※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

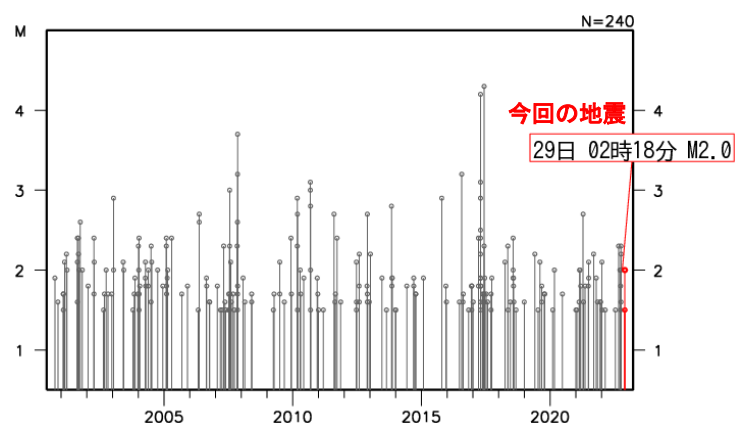


図6 図5領域b内の地震活動経過図

長崎県内で震度1以上を観測した地震の表（11月1日～30日）

地震発生時刻 各地の震度	震源地名	北緯	東経	深さ	規模
2022年11月24日20時20分 震度 1：雲仙市小浜町雲仙	熊本県熊本地方	32° 38.2' N	130° 42.2' E	14km	M4.0
2022年11月29日02時18分 震度 1：雲仙市南串山町＊	橘湾	32° 40.0' N	130° 03.0' E	14km	M2.0

注) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

＊を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

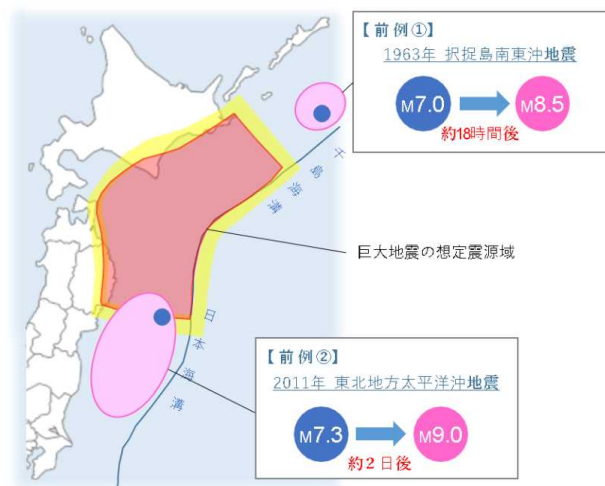
北海道・三陸沖後発地震注意情報について

令和4年12月16日から、北海道・三陸沖後発地震注意情報の運用を開始します。

▶北海道・三陸沖後発地震注意情報とは？

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、モーメントマグニチュード(Mw)7クラスの地震が発生した後に、更に大きな Mw8クラス以上の大規模な地震が発生した事例が2事例確認されています(右図)。

巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するため、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺で Mw7以上の地震が発生した場合には、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発信し、大地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして、後発地震への注意を促します。



「日本海溝・千島海溝沿いの後発地震への注意を促す情報発信に関する検討会報告書の公表等について」(気象庁 HP)

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2211/08b/20221108.html>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ」(内閣府 HP)

https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index.html

▶西日本では南海トラフ地震に備えましょう

西日本においては、南海トラフ沿いで大地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まったと評価された場合に、「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。

南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。南海トラフ地震の発生に伴い、関東から四国・九州にかけて極めて広い範囲で著しい災害が生じるおそれがあります。特に沿岸部では津波による甚大な被害が生じる可能性がありますので、大きな被害が見込まれる地域では、南海トラフ地震に備える必要があります。

自らの命、大切な人の命を守るために、今から準備しておきましょう。

地震の発生に備えよう



「南海トラフ地震について」(気象庁 HP)

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>